



市民憲章

豊前市は、海と山に囲まれた豊かな自然の恩恵と、
祖先の遺してくれた香り高い文化に育まれて発展してきたまちです。
わたくしたちは、豊前市民であることに大きな誇りと自覚を持ち、
市民ごぞって住みよい郷土を、つくることに願いをこめ
つぎの憲章を定めます。

働く喜びをもち、
暮らしを豊かにするまちをつくります。

こどもに大きな夢をもたせ、
老人をいたわる明るいまちをつくります。

教育と文化を高め、広い視野を持つ、
若さにみちたまちをつくります。

しあわせと健康を守り、心合わせて、
平和なまちをつくります。

めぐまれた自然と
優れた文化財をたいせつにし、
美しい環境のまちをつくります。

昭和49(1974)年11月22日制定

NEXT 第6次 豊前市総合計画 BUZEN

I 計画の前提



1. 総合計画策定の主旨
2. 計画の位置付け等
3. 計画の期間と構成
4. 豊前市の概況
5. 人口構造
6. 産業構造
7. 財政状況
8. 市民意向の把握

1 総合計画策定の主旨

現行の第5次総合計画が令和4年度までの計画期間となっていることから、新たな市政運営の指針となる第6次総合計画(令和5(2023)年度から令和14(2032)年度)を策定します。

策定にあたっては、住民との協働のもと財政の健全性を確保しながら、将来にわたり、住民が住みよく、誇りを持って暮らせる質の高いコンパクトシティの実現を目指していくため、市の将来の姿を明確に示すものとします。



2 計画の位置付け等

豊前市のまちづくりは、総合計画及び総合戦略を両輪として進めていきます。

総合計画は、行政運営の計画書であり、豊前市における最上位計画として全分野の計画や政策、事業展開の基本指針となるものです。

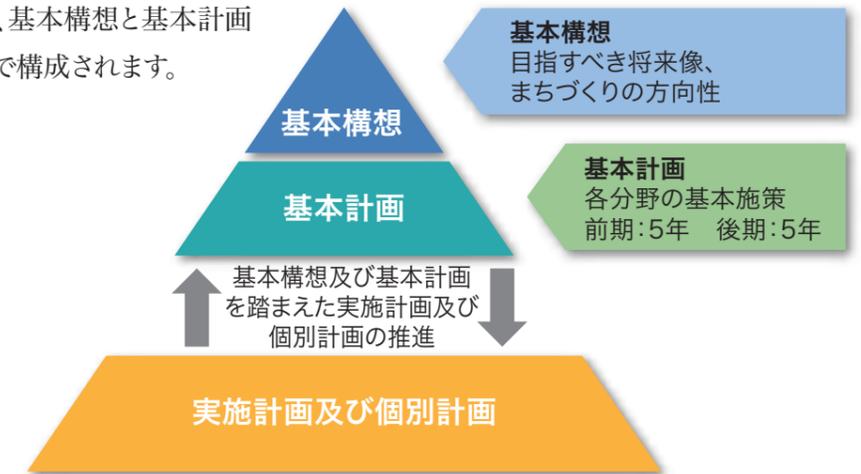
一方、「豊前市まち・ひと・しごと創生総合戦略(以下、総合戦略)」は、まち・ひと・しごと創生法に基づき、国や県の総合戦略を勘案し、地方創生に取り組むための具体的な施策を定めたもので、豊前市総合計画及びその他の計画と整合を図りながら、本市のまち・ひと・しごと創生のために推進する計画です。

【総合計画の位置付け】



3 計画の期間と構成

総合計画は、基本構想と基本計画及び実施計画で構成されます。



(1)基本構想

豊前市の目指す将来像及び施策の大綱等を示し、計画期間は令和5(2023)年度から令和14(2032)年度までの10年間とします。

(2)基本計画

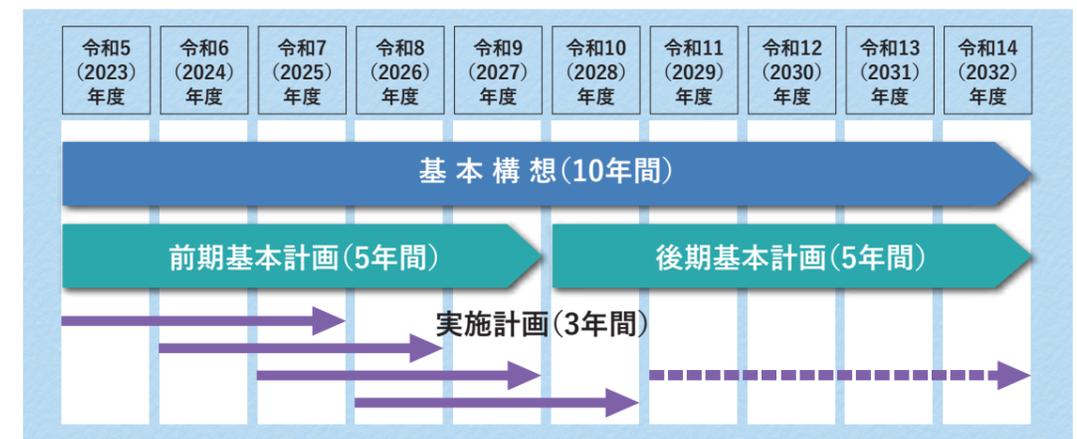
基本構想を実現するため施策を体系化し、総合的・計画的な市政運営の指針を示すものです。計画期間は前期と後期に分け、各5年間とします。

前期基本計画:令和5(2023)年度から令和9(2027)年度
後期基本計画:令和10(2028)年度から令和14(2032)年度

(3)実施計画

基本計画に示した施策を実施していくために、具体的な事業を定めます。計画期間は3年間として別途策定し、ローリング方式で毎年更新することで実効性の高い計画とします。

【総合計画の期間と構成】

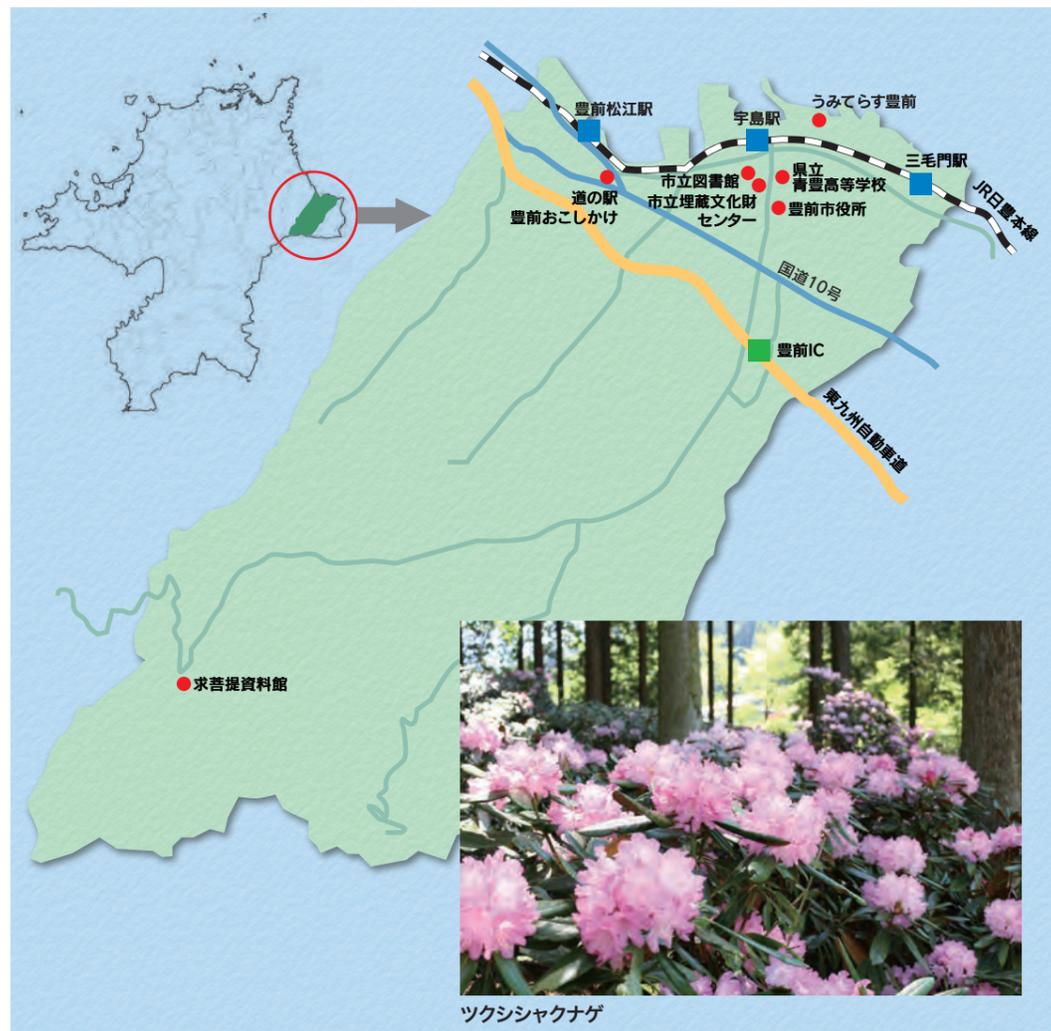


4 豊前市の概況

(1)位置

豊前市は福岡県の東端に位置し、南に修験道の遺跡で知られる求菩提山、天然記念物「ツクシヤクナゲ」の群生する犬ヶ岳がひかえています。

岩岳川を中心に豊前平野が扇状に開け、北は波静かな周防灘に面しています。



(2)沿革

明治22(1889)年4月市町村制施行により築城郡角田村、上毛郡内に八屋町ほか8町村が設置されました。そして明治29(1896)年には、築城、上毛両郡が合併し、築上郡となり、昭和30年4月には、八屋町(宇島町は昭和10(1935)年に八屋町と合併)、角田村、山田村、三毛門村、黒土村、千束村、横武村、合河村、岩屋村の9町村が合併して今日の豊前市の形がつけられました。発足当初の市の名称は、宇島市でしたが、同年4月14日には豊前市と名称を変更し、今日に至っています。

(3)交通・経済

主要交通網としては、東九州自動車道と国道10号線及びJR日豊本線によって構成される東九州ルートが通り、北九州市とは北西45km、大分県中津市とは南東7kmの位置関係にあり、京築地域南部の中心都市として位置しています。

経済的には北九州市と、市民生活や文化面では中津市と深い関係にあります。

(4)気候

気候は、瀬戸内海型気候区に属していますが、その最も西端に位置するために日本海側気候との中間的な性格を持っています。

年平均気温は15～16℃、冬季でも5℃程度で日本海型気候と同じですが、年間降水量は1,600mm程度で最も少ない地域に属しています。

(5)歴史・文化

犬ヶ岳、求菩提山を含む耶馬日田英彦山国定公園を中心とした豊かな自然と、国の史跡である「求菩提山」、重要文化的景観としての「求菩提の農村景観」、また、国指定重要無形民俗文化財「豊前神楽」や「大富神社春季神幸祭(八屋祇園)」などの伝統芸能も多く遺され、これら文化遺産を中心とした地域資源が豊富な地域としても知られています。

令和4(2022)年には、感応楽が、ユネスコ(国連教育科学文化機関)の無形文化遺産に、24都府県41件の民俗文化「風流踊」の1つとして登録されることが決定しました。

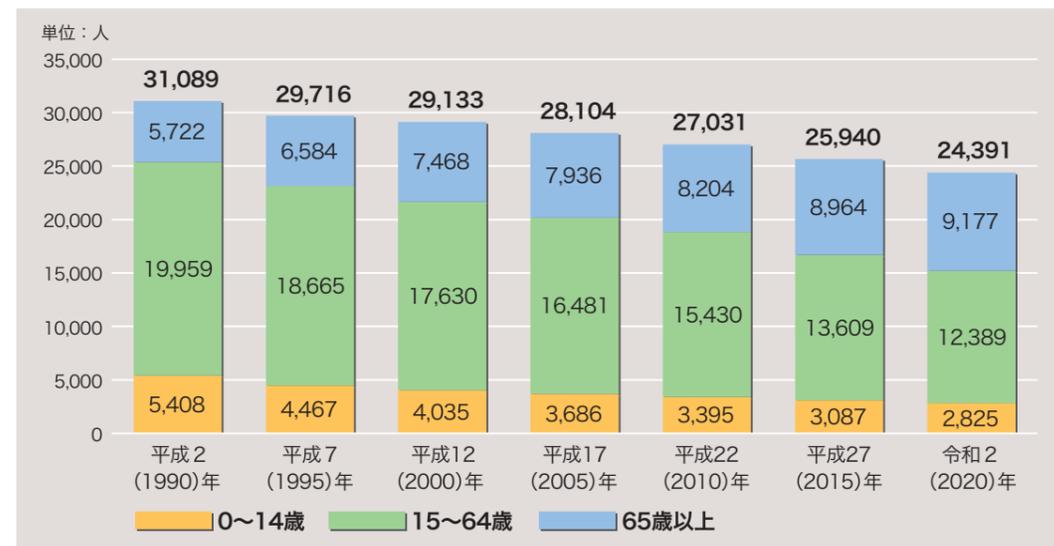


感応楽

5 人口構造

(1) 年齢3区分別人口の推移

総人口は年々減少を続けており、令和2(2020)年の人口は24,391人であり、10年前の平成22(2010)年と比べると2,640人の減少となっています。65歳未満の人口減少が続く一方で、65歳以上の人口増加が続いており、少子高齢化が進んでいます。

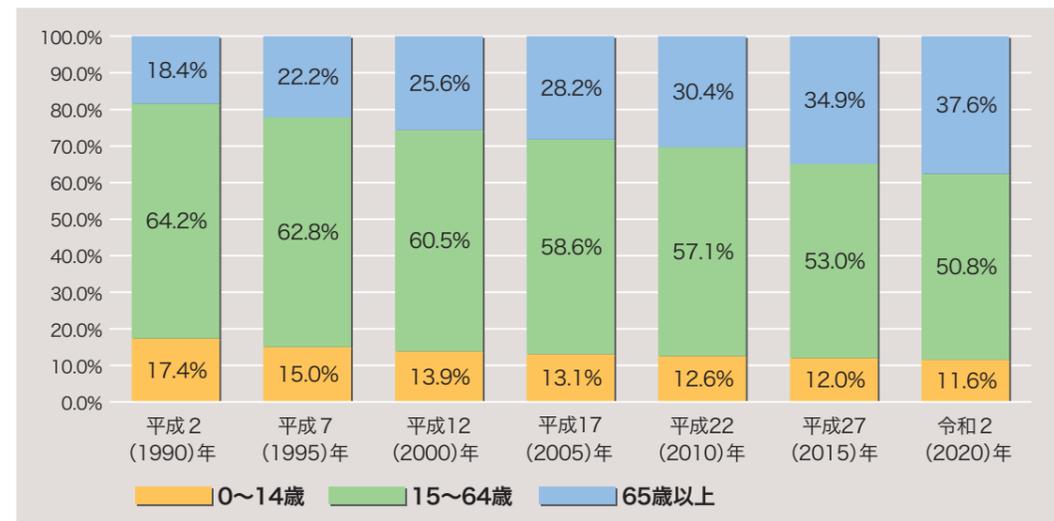


※年齢不詳を含むため、総人口と内訳の合計は一致しない

資料: 国勢調査

(2) 年齢3区分別人口構成比の推移

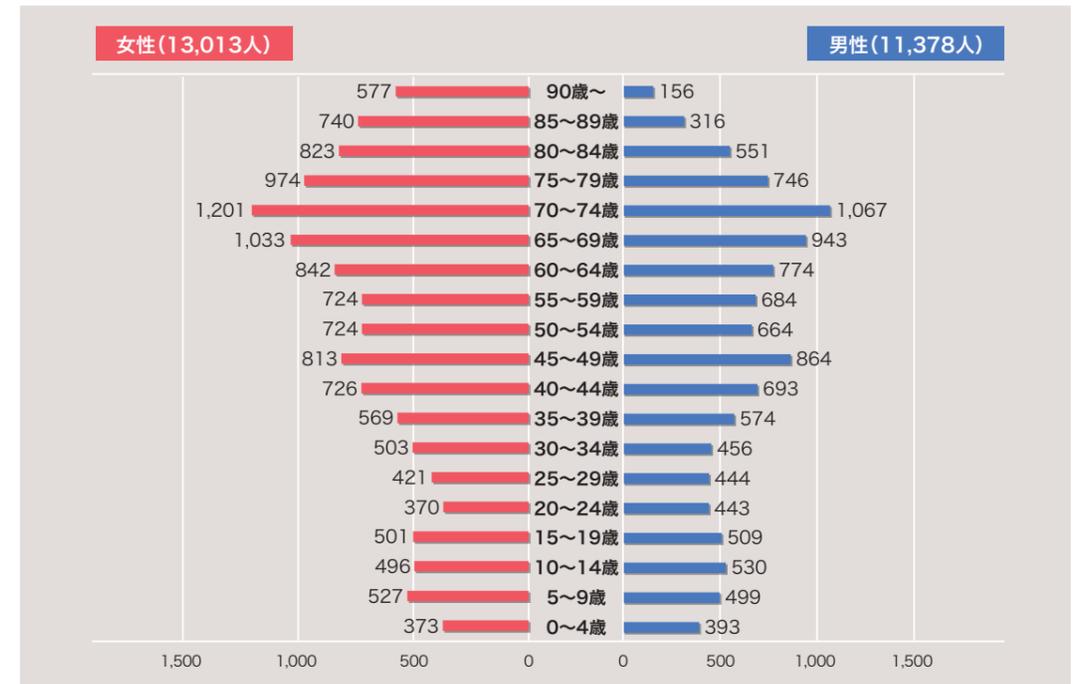
年齢3区分別人口構成比の推移をみると、少子高齢化の傾向が顕著であり、平成22(2010)年に3割を超えた高齢化率は令和2(2020)年においても更に上昇しています。



資料: 国勢調査

(3) 人口ピラミッド

人口ピラミッドをみると、男女共に70~74歳が最も多く、20歳代~30歳代が少ないため、高齢化率の上昇の要因になっています。



資料: 国勢調査

(4) 世帯状況の推移

平成22(2010)年までは世帯数は増加傾向にありましたが、平成27(2015)年以降は、減少に転じています。また、1世帯あたり人員は減少が続いており、令和2(2020)年には2.46となっています。

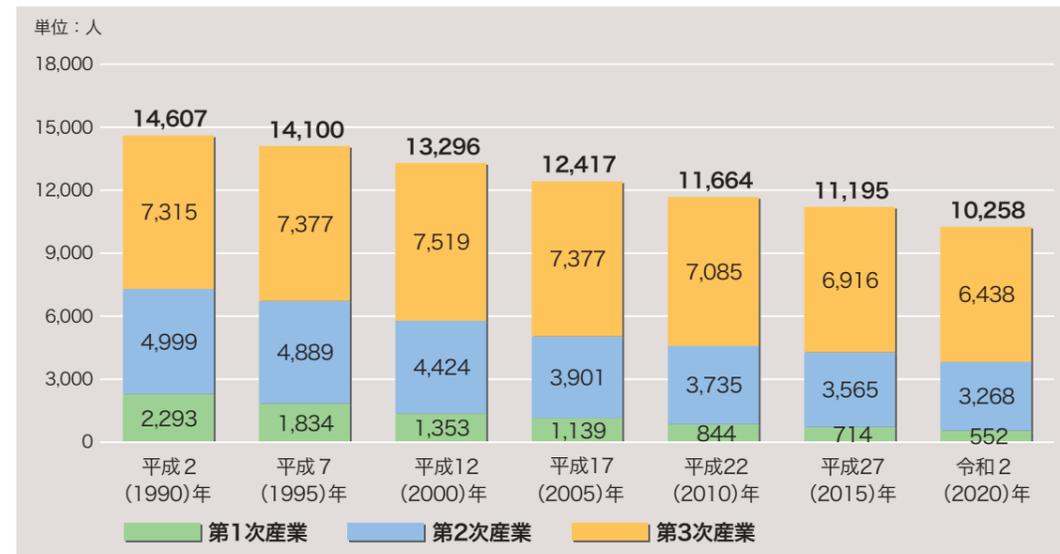


資料: 国勢調査

6 産業構造

(1) 産業別就業人口の推移

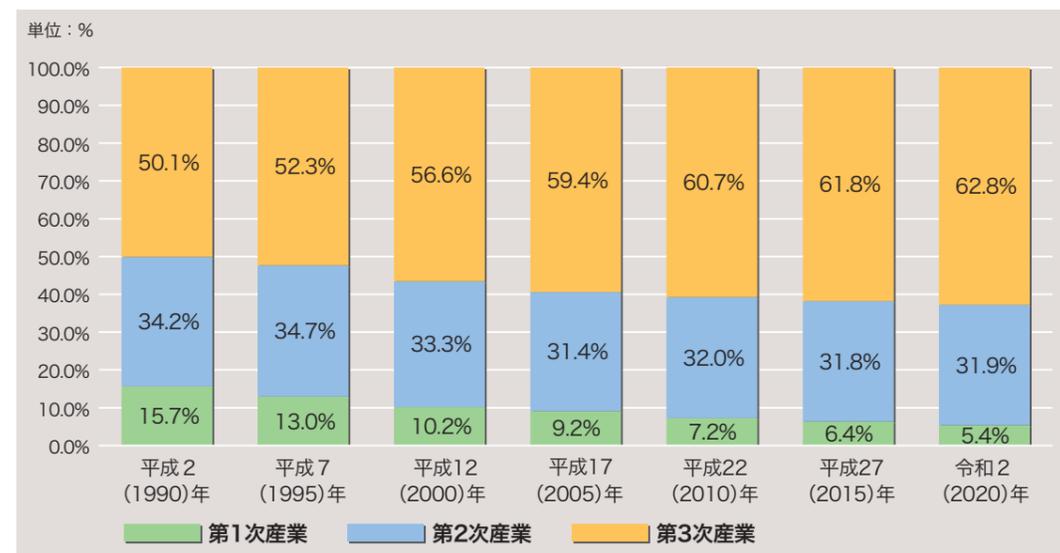
就業人口は減少が続いています。また、産業別就業人口で見ると、第3次産業も含めて全ての産業で減少しています。



資料: 国勢調査

(2) 産業別就業人口の構成比の推移

産業別就業人口の構成比の推移をみると、第1次産業の割合は年々減少する一方で、第2次産業は概ね30%代前半で推移し、第3次産業の割合は年々増加しています。



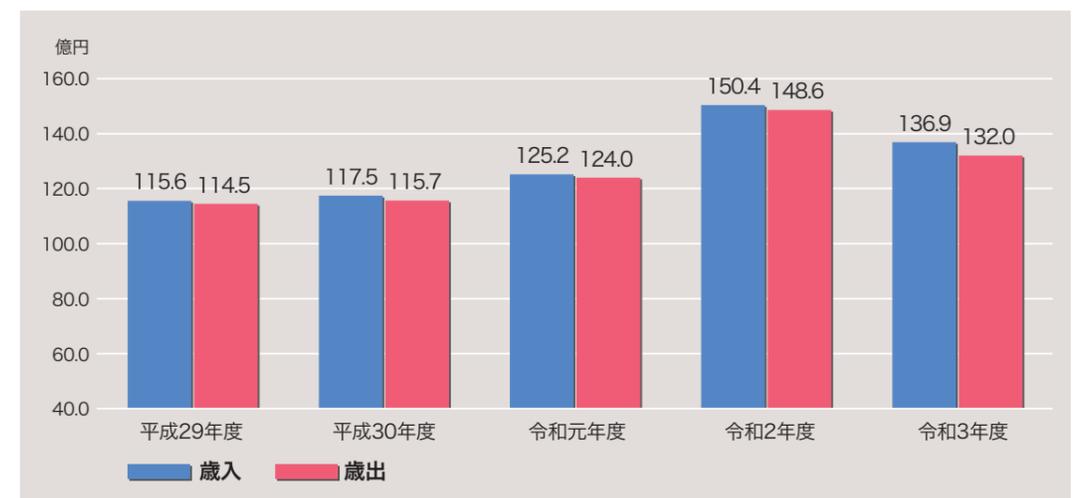
資料: 国勢調査

7 財政状況

(1) 歳入・歳出

歳入・歳出決算額をみると、令和2(2020)年度の歳入・歳出額は前年度に比べていずれも大幅な増加が見られます。これは、新型コロナウイルス感染症対策による国・県からの補助によるものであり、令和3(2021)年度についても、引き続き、歳入・歳出に占める割合は高くなっています。

■ 歳入・歳出決算額



資料: 豊前市財務課資料

■ 歳入決算額内訳



資料: 豊前市財務課資料

■歳出決算額内訳



資料：豊前市財務課資料

(2)財政指標の推移

財政指標の推移をみると、地方債残高^{※1}及び実質公債費比率^{※2}は着実に減少傾向、経常収支比率^{※3}は微増傾向にあったものの、令和2(2020)年度からは減少に転じています。



資料：豊前市財務課資料

用語解説

- ※1 地方債残高：地方公共団体が行う事業のために借り入れた資金。
- ※2 実質公債費比率：借入金の返済額等の経費による財政負担の度合いを判断する指標。
- ※3 経常収支比率：財政構造の弾力性を判断するための指標。

8 市民意向の把握

(1)市民意識調査結果の概要

令和3(2021)年10月に市民3,000人を対象に市政全般にわたる評価、意見、意向などを把握し、今後の施策の推進に生かすほか、本計画の策定の基礎資料として活用するため、アンケート調査を実施しました。

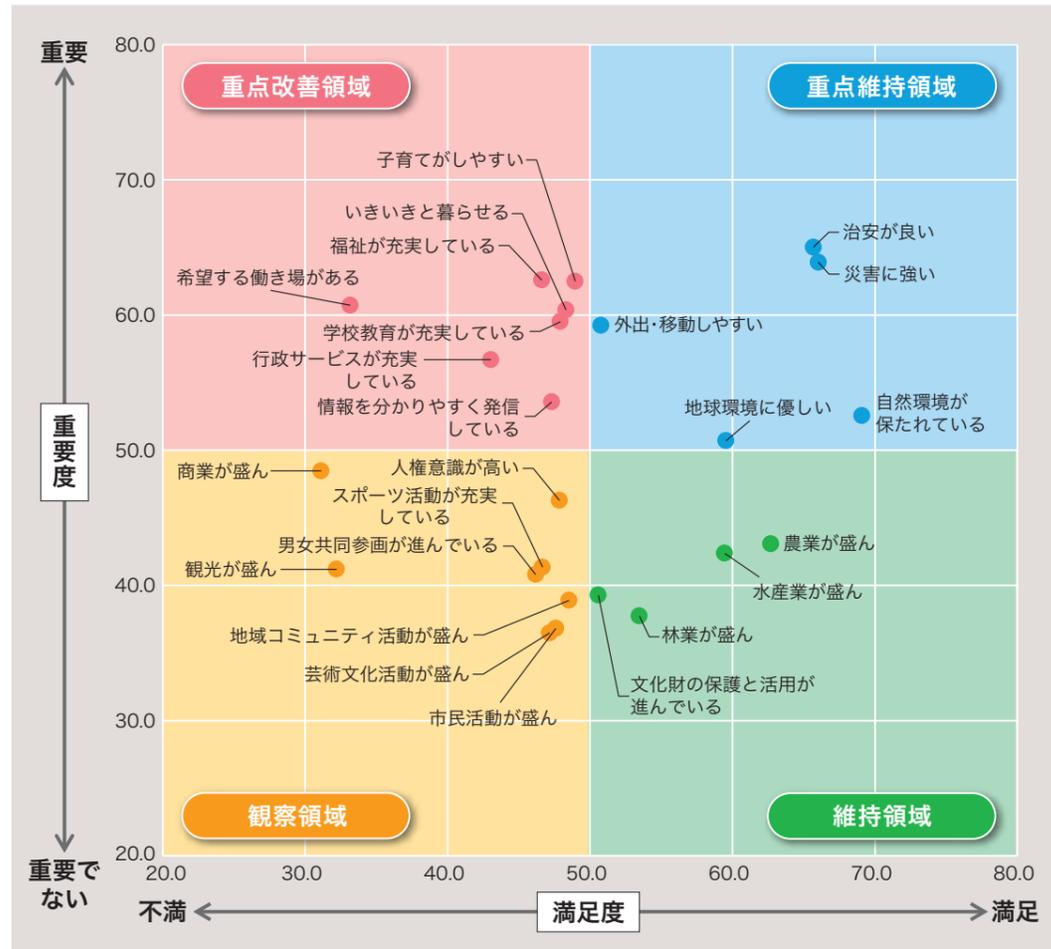
「力を入れてほしい主要施策」を示す「重要度」と、「満足している主要施策」を示す「満足度」として整理しました。

重要度×満足度

- 第5次豊前市総合計画に掲げる各施策の重要度の偏差値を縦軸、満足度の偏差値を横軸にし、偏差値が50となることを基準として4つの象限を設定し、重要度と満足度の相関関係で整理しました。

重点改善領域	施策の重要度は高く満足していない現状で有り、満足度を向上させるための施策の改善・充実が最も望まれている施策
重点維持領域	施策の満足度、重要度も高いため、満足度を低下させないで効率化を図る必要がある施策
観察領域	施策の満足度、重要度も低いため、ニーズを見極めながら満足度を向上させるための改善・見直しを図る必要がある施策
維持領域	施策の重要度は低く満足している現状であり、現状を維持する必要がある施策

領域	施策	満足度	重要度	領域	施策	満足度	重要度
重点改善	子育てがしやすい	49.0	62.5	観察	地域コミュニティ活動が盛ん	48.5	38.9
	いきいきと暮らせる	48.3	60.4		人権意識が高い	47.8	46.3
	学校教育が充実している	47.9	59.5		市民活動が盛ん	47.6	36.8
	情報を分かりやすく発信している	47.3	53.6		芸術文化活動が盛ん	47.2	36.5
	福祉が充実している	46.6	62.6		スポーツ活動が充実している	46.7	41.3
	行政サービスが充実している	43.0	56.7		男女共同参画が進んでいる	46.2	40.8
	希望する働き場がある	33.2	60.7		観光が盛ん	32.2	41.2
					商業が盛ん	31.1	48.5
重点維持	自然環境が保たれている	69.1	52.5	維持	農業が盛ん	62.7	43.1
	災害に強い	66.0	63.9		水産業が盛ん	59.5	42.4
	治安が良い	65.7	65.0		林業が盛ん	53.5	37.7
	地球環境に優しい	59.5	50.7		文化財の保護と活用が進んでいる	50.6	39.3
	外出・移動しやすい	50.8	59.2				



重点改善領域の施策は7つありました。その中でも、「希望する働き場がある」は満足度の偏差値が33.2と最も低く、取組の充実が求められます。

重点維持領域の施策は5つありました。その中でも、「自然環境が保たれている」は満足度の偏差値が69.1と最も高くなっています。また、「治安が良い」(66.0)や「災害に強い」(65.7)も高く、引き続き維持していくことが求められます。

観察領域の施策は8つありました。その中でも「商業が盛ん」や「観光が盛ん」は満足度の偏差値が31.1、32.2と低いものの、重要度の偏差値が40以上あり、今後の取組によっては重点改善領域に移動する可能性が高いため、改善・見直しを図っていくことが求められます。

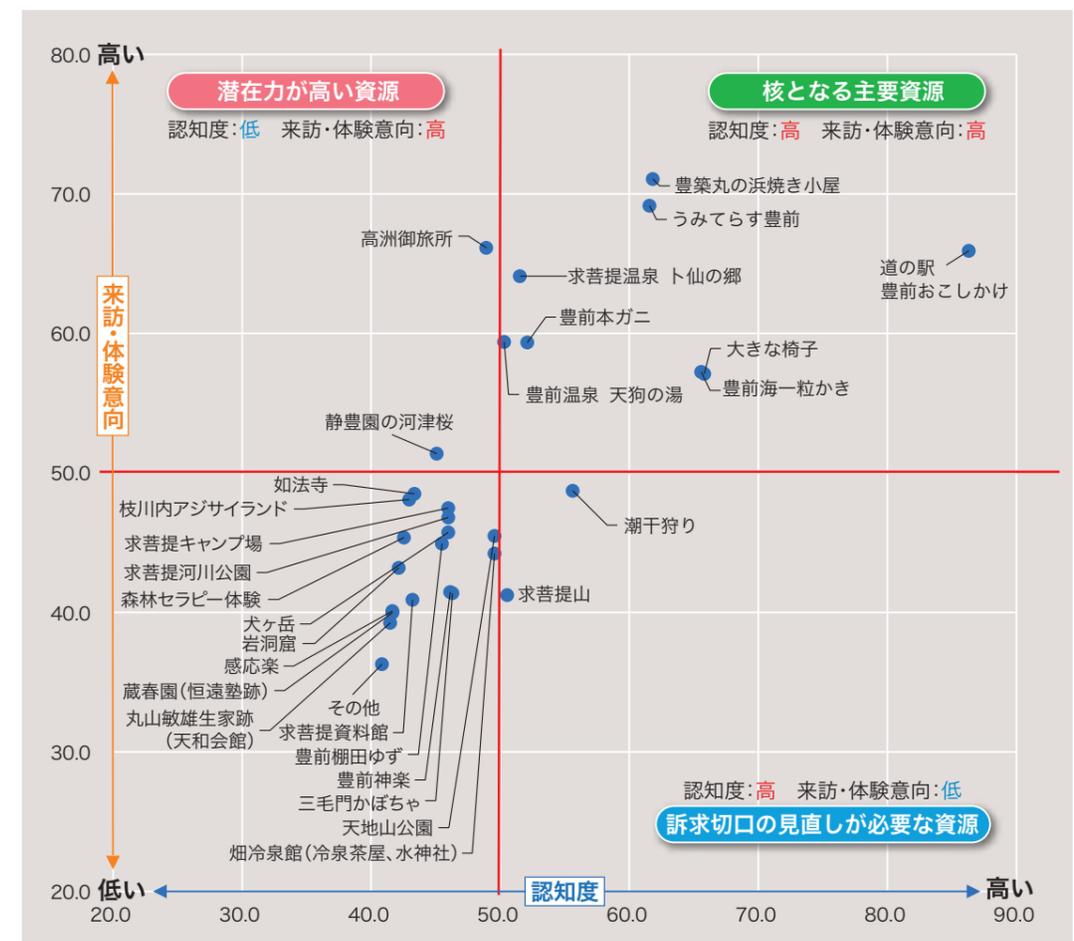
維持領域の施策は4つありました。これらの施策は、引き続き現状を維持していくことが求められます。

(2) 認知度・来訪意向調査結果の概要

令和3(2021)年12月に市外居住者約2,000人を対象に市内の各地域資源に対する認知度・来訪意向、また、今後のまちづくりへの参画意向等を把握することを目的にアンケート調査を実施しました。

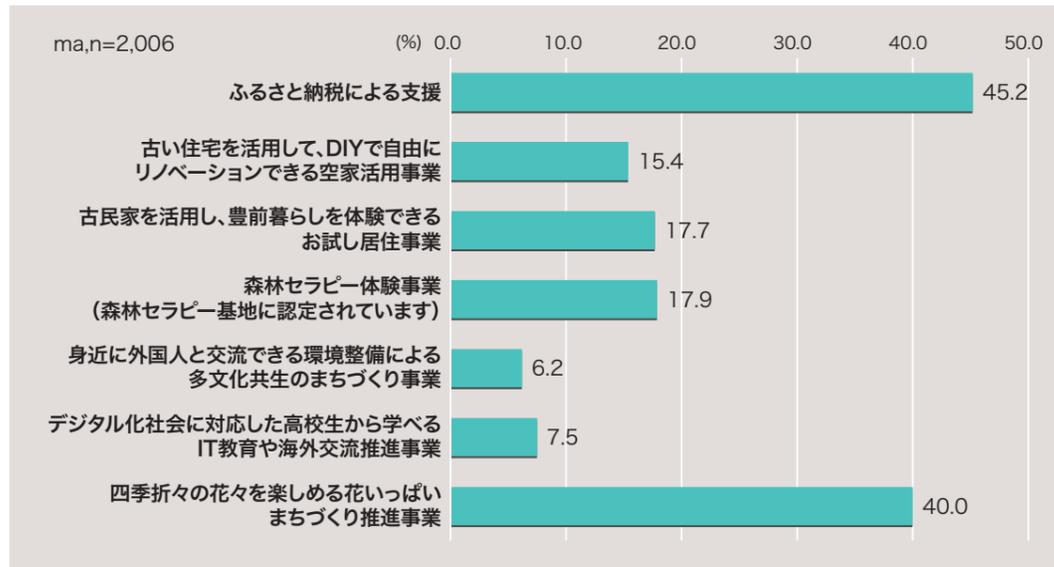
認知度×来訪・体験意向

- 認知度の偏差値を横軸、来訪・体験意向の偏差値を縦軸にとり、市内の各地域資源の相関関係を見ると、概ね認知度の高い資源は、体験・来訪意向も高くなる傾向にあります。
- 認知度も高く、来訪・体験意向も高い資源としては、「道の駅豊前おこしかけ」や「うみてらす豊前」、「豊前海一粒かき」などとなっています。
- 認知度は高いが来訪・体験意向は低い資源としては、「潮干狩り」と「求菩提山」があり、今後、来訪・体験意向を高めていく取組が求められます。
- 認知度は低い、来訪・体験意向は高い資源としては「高洲御旅所」と「静豊園の河津桜」があり、今後、プロモーションを強化していくことが求められます。
- 認知度も低く、来訪・体験意向も低い資源については、まずはプロモーションを強化し、認知度を高めていくことが求められます。



今後の取組案に対する参画意向

- 豊前市の今後のまちづくりの取組案に対する参画意向については、「ふるさと納税による支援」の割合が最も高く45.2%、次いで「四季折々の花々を楽しめる花いっぱいのもちづくり推進事業」が40.0%で、この2つは4割を超え他の項目と比べても高い割合でした。



犬ヶ岳セラピーウォーク

(3)高校生アンケート調査結果の概要

令和3(2021)年9月に福岡県立青豊高等学校2年生を対象として、これからのまちづくりに向けて、高校生の意見を把握し、総合計画策定の基礎資料とすることを目的にアンケート調査を実施しました。

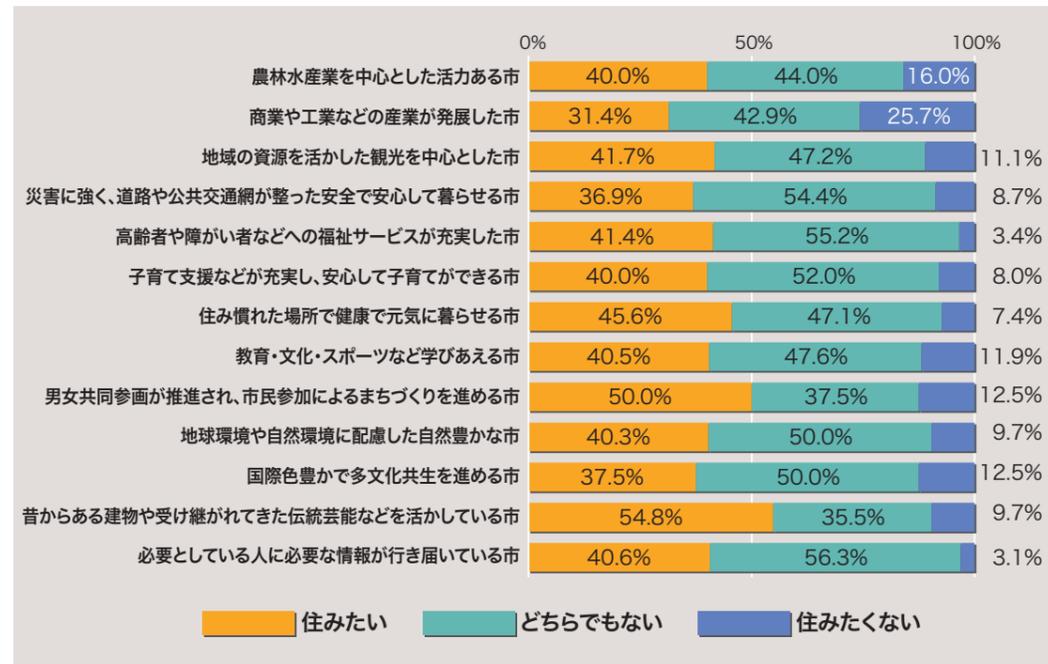
将来像について

- 高校生が望む将来の姿の上位3位は、「安全で安心して暮らせる」、「安心して子育て支援ができる」、「健康で元気に暮らせる」でした。これらの結果は、市内居住者と市外居住者との違いはなく共通しています。



問2	活力ある市	農林水産業を中心とした発展した市	商業や工業などの産業が発展した市	地域の資源を活かした観光を中心とした市	災害に強く、道路や公共交通網が整った安全で安心して暮らせる市	高齢者や障がい者などへの福祉サービスが充実した市	子育て支援などが充実し、安心して子育てができる市	元気に暮らせる市	住み慣れた場所で健康で元気に暮らせる市	教育・文化・スポーツなど学びあえる市	男女共同参画が推進され、市民参加によるまちづくりを進める市	地球環境や自然環境に配慮した自然豊かな市	国際色豊かで多文化共生を進める市	伝統芸能などを活かしている市	昔からある建物や受け継がれてきた伝統芸能などを活かしている市	必要としている人に必要な情報が行き届いている市
市内居住者	6 9.7%	7 11.3%	12 19.4%	19 30.6%	16 25.8%	20 32.3%	17 27.4%	13 21.0%	3 4.8%	15 24.2%	7 11.3%	12 19.4%	9 14.5%			
市外居住者	19 9.8%	28 14.4%	24 12.4%	83 42.8%	43 22.2%	56 28.9%	52 26.8%	29 14.9%	5 2.6%	47 24.2%	10 5.2%	18 9.3%	24 12.4%			
市内居住者				2位	4位	1位	3位					5位				
市外居住者				1位	5位	2位	3位					4位				

- 将来像を実現した場合に豊前市に住みたいかを尋ねたところ、将来像と居留意向の間に強い関係性は見られませんでした。ただし、「住みたい」と「住みたくなはない」の割合を見ると、各項目とも「住みたい」が上回っています。
- 「どちらでもない」の割合が3～5割を占めていることも踏まえると、回答者の多くが市外居住者であることや、就学・就職に伴い一度は市外、地域外に出る状況があることがその要因として考えられます。



求菩提資料館